

『田植え』実習

6月1日(火)都市園芸科2年、6月3日(木)都市園芸科1年、6月4日(金)緑地計画科1年、6月10日(木)緑地計画科2年の生徒が、神代農場(東京都調布市)で『田植え』の実習を行いました。今回植えた稲は糯米(もちごめ)で、品種は『マンゲツモチ』です。

例年ですと1年生が田植えの実習を行っています。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応で現2年生が田植えを行うことができなかったため、今年度実施しました。

生徒は水田の心地よい泥の感触を味わうとともに、膝まで水田に埋もれながらも一生懸命に田植えを行いました。水田の水は湧水を利用しているので水温が低いため分けつ(新しい茎を出すこと)が少なくなります。茎の数を確保するため1か所に5株の苗を植えました。衣服等の汚れも気にせず約1時間で田植えを終えました。

11月に『稲刈り』を実施予定です。稲がすくすくと生長し、秋には稲穂が黄金色に輝くのが今から楽しみです。

*4日間、田植えの実習を見ることができれば良かったのですが、都合のついた3日と10日に田植えの実習を見学しました。



田植えの様子：都市園芸科1年



田植えの様子：緑地計画科2年



湧水の水路で衣服等の汚れをおとす



田植え後の神代農場の水田

【参考】令和2年産水稻の作付面積(子実用)は146万2,000ha(ヘクタール)で、前年産に比べ7,000ha減少。うち主食用作付面積は136万6,000haで、前年産に比べ1万3,000ha減少。